

取組名称	国産穀物給与豚肉「みちのくの心意気」販売プロジェクト ～飼料会社と東北地域の耕畜連携に向けた新たな挑戦～		団体設立後の経過年数	62年
応募取組主体名称	伊藤忠飼料株式会社	活動地域	宮城県	応募取組の活動年数 2年
取組主体の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 企業 / <input type="checkbox"/> 学校 / <input type="checkbox"/> NPO・任意団体 / <input type="checkbox"/> 自治体 / <input type="checkbox"/> 地域コミュニティ / <input type="checkbox"/> 個人 / <input type="checkbox"/> ユース部門 (概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください) / その他			
応募取組に関する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / <input checked="" type="checkbox"/> 環境と福祉賞 / <input checked="" type="checkbox"/> 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / <input checked="" type="checkbox"/> 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への思いやり賞 / <input checked="" type="checkbox"/> SDGsビジネス賞 / <input checked="" type="checkbox"/> EXPO2025 いのち動的平衡賞			



取組の要旨
養豚飼料原料の輸入依存と休耕田増加等による水田活用問題のアプローチとして、水田を畑へ転用したトウモロコシ生産を実施しています。またこのトウモロコシを用いて国産穀物100%飼料を製造、豚へ給餌しており、出荷した豚はブランド豚【国産穀物給与豚肉「みちのくの心意気」】として販売したり地元地域の学校給食へ提供したりしています。トウモロコシ栽培と養豚を通じた耕畜連携による相互補完の取組みです。
実績の要旨
2022年は宮城県涌谷町をはじめ東北5か所にある水田だった土地54haを活用しトウモロコシ150tを収穫、300tの飼料を製造し、それを給餌した豚肉「みちのくの心意気」を首都圏のスーパーマーケットむけに80頭4,400kg販売しました。この取組みには農家さん以外にも自治体、精麦会社など多くの方々関わっているため、これまで関わりの少なかった業種・団体同士での繋がりが出来ています。また「みちのくの心意気」の魅力を伝えるPOPを作成したり、食育の取組みを給食日より地元新聞に掲載いただいたりすることで、多くの方に知っていただく機会が増えつつあります。

取組評価の要旨	環境への貢献	国産トウモロコシの生産は輸入トウモロコシよりも温室効果ガスを削減し、畜糞のたい肥化により化学肥料の削減と畜糞処理でのエネルギー削減ができます。
	社会・経済への貢献	特色ある取組みにより地域を活性化し、豚肉を差別化販売をすることで取組関係者へ経済的に還元しています。
	地域資源の活用	休耕田・水田の利用は、地域資源の活用に繋がります。
	普及・汎用性	輸入トウモロコシと水田活用問題は日本全国共通です。また豚肉をブランド化して消費者に届けることでこの取組みをわかりやすく伝えています。
	革新・ユニーク性	国内での飼料用トウモロコシの生産、それを給餌した豚肉のブランド化と販売は全国でも珍しい取組です。
	継続性	耕作面積と豚出荷頭数を増やし、取組規模を拡大する予定です。

展望の要旨	飼料用トウモロコシの保管加工技術の向上と「みちのくの心意気」の拡販を経て、飼料用国産穀物の取組みを全国へ広めることを目指します。
-------	--